

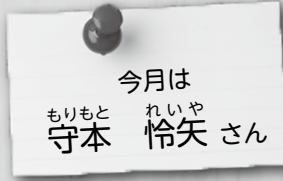
つむぐ通信

シリーズ連載 その102

「つむぐ通信」では、地域おこし協力隊員が、月替わりで活動内容やイベントなどのお知らせ、地域おこしに関する企画や提案を紹介していきます。

【江田島市地域おこし協力隊】

国際交流支援員	大方 芳恵
えたじま里海ナビゲーター	守本 怜矢
観光事業総合プランナー	竹林 健一
観光事業総合プランナー	山田 京子



facebookで情報を発信しています

江田島市地域おこし協力隊



僕自身は、今年8月に株式会社milumaを創業し、田舎専門の不動産事業を始めるために準備を進めています。来年度は、江田島市の空き家が多くの人々の元に渡るよう尽力していきたいと思っています！

さらに、この過程で知っていく空き家流通の知識を活かして、江田島市のような便利な田舎に住みたい人のニーズに応えられる新しい社会インフラを作っていきたいと考えています！

こうした事業を考え、創業に至った背景には、実は学生時代の僕の無念だと感じた経験があります。僕は学生時代、東広島市福富町にて古民家と移住の研究をしていました。福富は田園風景広がる静かな谷あい町で、移住者が現れ始め、広島県内でも少しずつ「元氣な町だよね。」と注目され始めている町でした。

しかし、魅力的な景色に、魅力的な古民家があれば、当該地域に不動産がないため、なかなか家を買うことすら大変な状態でした。結果、町を元気にしたい住民自治協議会の方が、移住窓口を担い、希望者には一軒一軒案内を行い、個人間売買を

幹旋していました。この窓口業務は、自治協の人は大変ではあるけど、大好きな町を守るためにはやらざるおえないし、仕組み化するほどのノウハウもないのも現状でした。そのため、人気の地域といえども、移住を希望する方が断念することが多く、当時の僕は、地域おこし協力隊として入ってこられたお兄さんと一緒に頭を悩ませる日々でした。結局、そこに解決策を見出すことができず、いつしか私は、すっかり諦めてしまっていました。

しかし、2022年に江田島市にやってきて、空き家バンクでの成約率に僕は大変驚かされました。2万人ほどの地域で、年間40件ほどの空き家が登録され、それに近い数の成約がなされていたのです。

そこには、江田島市が本気で空き家が売れる仕組みを作っていること、サイトを整備し、まちづくり会社のフウドが案内をする仕組みを実装していたのです。それを知り、最初は「すごいなあ」とどこか他人事のように眺めていました。しかし、僕は協力隊1、2年目に経営学の大学院に通い、自分の事業を考えていく中で、「あれ、この仕組みは僕が諦めた田舎の空き家流通の新しい仕組みを作れるのでは？」と考えるようになりました。

そうした背景から、株式会社milumaを創業し、みんなが住みたい



と思う場所に住みやすくする新しい仕組みを作っていきたいと考えています。その事業は、地域に住まわれている住民の方々の手が必要になります。弊社では皆さんのことを「センパイ」と称させていただき、ぜひ連携させていただきたいと考えています。

描きたい未来があるから、自分たちで手を動かし描いていけるよう、新しい不動産業の形を目指していきたいと思います！

ETAJIMA

“つなぐ・つながる”をテーマに市内で活躍する人やお店をリレー形式で紹介！

GoON! Vol.42

ふぁーむうみがめ (江田島町)

堀野 あきら 晃さん



【企業紹介】2024年2月に個人事業主で開業。自らの名を冠した「堀野農園」ではインパクトが無く、覚えてもらいやすい企業名を思案。縁起物の鶴と亀のうち、現代的な持続可能な意味合いを感じる亀から企業名にウミガメを加えた。江田島市商工会の創業塾を受講後、商工会からの助言も受けながら作物の選定や加工品のさらなる向上を図る。

堀野さんは広島市の金融機関を定年退職後「農業を始めたい」というかねてからの望みで、江田島町の畑つき物件を購入。自宅は広島市ながら、殆どはこの江田島市で事業を行う。築50年超えの中古住宅で、内装のしつこい塗り替えや床の張替えなど家族の協力も得て補修を行い、裏庭の荒畑にも手を入れた。同町に購入した10aの耕作放棄地は雑木林のような荒れ方で、

業者に伐採のみ依頼後は、自身で草抜きなど行い、耕した。小さな畑のあるオフィスでは果実など複数種を育て、もと耕作放棄地の畑には量産用の品種を移植する。「かつての農地だった場所が、

次のこどもたち、今この世代を考える。放っておけなくて取り組んでいる。

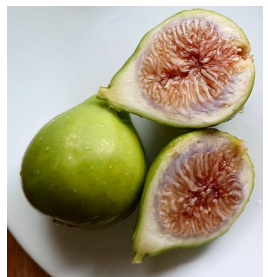


素材の味と色が特徴のジャム(左からラズベリー、ブルーベリー、マルベリー)。栄養価が高く果実の食感を保ったマルベリージャムは貴重

堀を強固にしたサツマイモ栽培の復活も考えつつ、気候に適したイチジクやブルーベリー栽培に現在は着手中。江田島市の

荒れ果てていく姿は悲しいですね。島内の耕作放棄地の増加、食料自給率の低い今の日本を憂い、輸入依存の現状に危機感を抱く。次世代の若い人に、自分が起こした事業を引き継いでほしいと堀野さんは語る。

島根県西部の山間地域で育った堀野さんは、祖父の畑でサツマイモを収穫した幼少の体験が忘れられないでいた。趣味のカヌーの縁で、定年前から江田島市へ通っていた際、オーリーブ栽培をしていたカヌー仲間から小さな畑を借りた。2年間のサツマイモ栽培の経験から自分の畑でも植えてみたが、柵が弱く、イノシシの被害に遭った。



皮ごと食べられるホワイト種のイチジク。他にフランス産の品種をデザート用に検討中

「残りの人生、好きなことがしたいなと思って。家族の了解もあつたので」と堀野さん。サツマイモだけでなく、他の作物を複数育てて結果を出す、多角化の手法に驚かされる。前職の金融機関では多様な商品を紹介していた堀野さんの視点と手腕が冴える。

海で殆どを過ごすウミガメの中には、産卵のときに生まれた場所へ戻るといふ研究もある。こどもの頃の思い出から、堀野さんは定年後に農業の道を選んだ。単なる回顧ではなく個人の本能を、ウミガメは象徴しているのかもしれない。

マスコットキャラクターのKUKUNA。(ハワイの言葉で「木漏れ日」の意)

※蓬萊柿…関西以西で栽培。完熟すると先端が裂けるので遠方の輸送に向かない。江田島市では約18トン(2024年時点)を広島市などに出荷

所江田島町小用
企業情報
freedom1959akira ★ gmail.com (★を半角@にして送信)
営午前10時〜午後2時(メール対応時間)(土日祝日、年末年始、お盆休み除く)

広報掲載から翌月頃にA3判フルカラー版を江田島市ホームページで更新します

